

工場の立地条件を地図で確かめる

山形県 山形大学附属小学校 清野 清人

1 地図指導が子どもを変える！

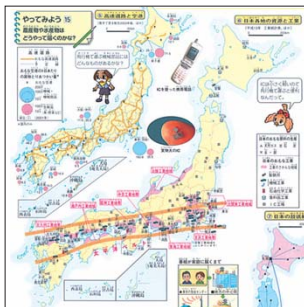
「調べて考える」社会科学習で、子どもが「調べる」ためには、調べ方を習得しておく必要がある。インターネットで調べる方法もあるが、いつでもどこでも使用できる地図帳を、目的に応じて活用できる子どもにしたいと願ってきた。そのためには、地図の「使い方」を指導し、地図で実際に確かめるという活動を意図的に取り入れることが重要であると考え。この積み重ねによって、子どもは、地図帳のよさを理解し、「まず地図帳で調べよう」という意識が育つと考えている。

2 山形県もおもな工業地域!?

5学年の「日本の工業生産」において、地図活用の一例を以下に示したい。

原材料と製品の輸送面で、海沿いに工業のさかんな地域があることが見えてきた子どもたちに、「さくらんぼなどの農産物で有名な山形県も、電化製品の重要な部品の生産地なんだよ。」と投げかける。子どもたちは、その根拠を地図帳（帝国書院『楽しく学ぶ小学生の地図帳（初訂版）』p.60の「⑥日本各地の資源と工業」に見つけ、山形県にはIC（電子部品）工場の記号が3つあり、全国的に見ても多いことに気づくだろう。

そこで、ICが使用されている電化製品を紹介し、ICの大きさを実物や地図帳の写真で確認した後、子どもたちに気にな



『楽しく学ぶ小学生の地図帳（初訂版）』p.60

ることを出させる。身近な電化製品の重要な頭脳部分にあたるICと農業県である山形県とのつながりが気になり、「なぜ山形県にIC工場の記号が多く見られるのか？」という問いをもつであろう。

さらに、「ICは小さくて軽いので飛行機で運ぶと便利」という吹き出しを手がかりに、

「⑤高速道路と空港」をもとに、山形県にはICを輸送するのに便利な高速道路と空港があることに気づくであろう。



p.41-42

らがあるのかを、くわしい地図で確かめさせることで、庄内空港、山形空港、東北自動車道に通じる山形自動車道の存在を知り、IC工場の近くには高速交通網があることに納得するであろう。また、この確かめで終わらずに、IC工場の記号がある岩手県など他県でもあてはまるのかを「各地方の地図」で確かめることも大事だと考える。

3 地図は役立つナビゲーター

異学年集団による課題追究活動『チャレンジタイム』で「自分だけの旅行プランを立てよう」を選択した4年生のAさんは、地図帳の鉄道網をじっくりと見て、「時間をかけていくのが旅行の楽しみだから、乗り換えもある鉄道を使っていこう。」と、北海道への経路を決めていった。高速道路、航空路もあるなかで、鉄道を選択したAさん。彼は、地図の記号を見ながら、車窓から見える秋田県、青森県の景色を想像しているのだろう。地図帳は、目的意識をもって使用することで、さまざまな情報を提供してくれるものであることをAさんの姿から改めて感じることができる。